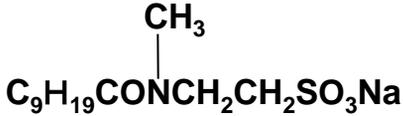


# 「ダイヤポンHF-SF<sup>®</sup>」のご紹介

高起泡性界面活性剤 — Foam Booster —

## 1 製品の特長

### ★ダイヤポンHF-SF<sup>®</sup>化学構造



※特許出願済み

INCI NAME: SODIUM METHYL CAPROYL TAURATE

表示名称: カプロイルメチルタウリンNa

化審法番号: 2-1658

CAS: 20461-70-5

性状: 無色～淡黄色の液体で、わずかに特異臭がある。

有効成分: 25%

塩化ナトリウム: 1.0%以下

### ● 植物性で、生体関連物質に類似の化学構造をもつ洗浄成分

ヤシ油を原料の起源とし、胆汁中に存在するタウロコール酸と類似の化学構造をもつ洗浄成分です。

### ● 高い安定性

加水分解安定性が高く、耐酸性、耐アルカリ性に優れるため、幅広いpH（3～11）でお使い頂けます。

### ● 高い起泡性

ヘアシャンプー等の原料として、最も一般的なアルキルエテルサルフェート型陰イオン性界面活性剤（AES）に比べ、広いpH領域で高い起泡性を示します。

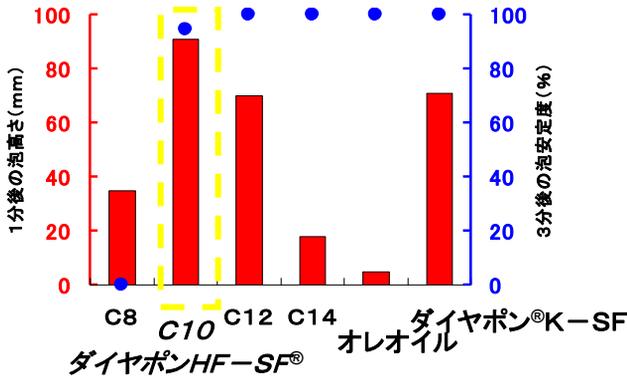
### ● 低毒性

非常に低い細胞毒性の界面活性剤です。

## 2 製品の機能性

▶ アルキル鎖長10の起泡性が非常に優れています。

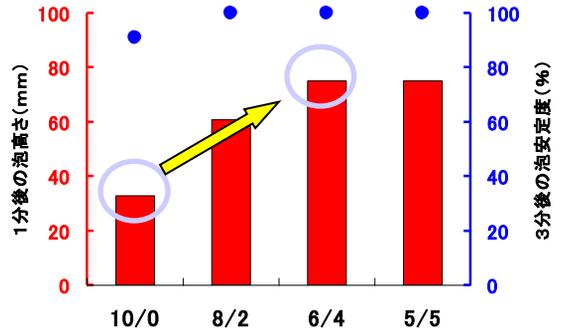
### アルキル鎖長による起泡性の比較（ミルサー法）



▶ ダイヤポンHF-SF<sup>®</sup>は起泡性UPが可能です。

### AESとの組み合わせでの増泡効果

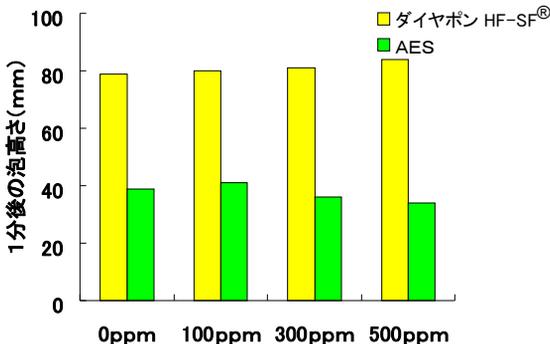
（ミルサー法、1wt%、pH5.5、25°C）



▶ ダイヤポンHF-SF<sup>®</sup>は耐硬水性に優れます。

### 硬水中での起泡力

（ミルサー法、1wt%、pH5.5、25°C）



▶ ダイヤポンHF-SF<sup>®</sup>は非常に低い細胞毒性を示します。また、細胞毒性は臨界ミセル濃度（CMC）と相関があることが分かります。

### 細胞毒性試験

（ウサギ角膜細胞を使用したニュートラルレッド（NR）バイオアッセイ法）

